

2024年9月29日

「わが友よ、喜び踊ろう」

ハバクク書 2:2-4、3:13-19

坂元 高牧師

ハバクク書は短いながらもそこに救いの真理が凝縮されて書かれています。紀元前 7 世紀頃、歴史的な大転換があった時代、預言者ハバククは主よ、いつまでなんですかと叫んでいます。神はその切実な問いに、カルデア人を送ろうと答えられました。カルデア人、つまりバビロニア人は力ある人々、戦争に強い人々です。しかしその力を自らのために発揮して、人々を強く支配するようになってしまいました。そこで再びハバククは神に嘆きました。彼らは私たちをも苦しめている、彼らを何とかして頂けないでしょうか、と訴えました。神は、あなたがたが助けられるその日は必ず来る。その日を待つためにあなたがたに信仰を授けよう、と答えられました。神は、どのくらいですか、というハバククの問いには答えられませんが、信仰によってあなたがたの心を、国を、支えなさいと答えられました。

3 章後半で、ようやく神が登場します。これまでの静けさとは違い、強い激しい動きです。山は大きく揺れ、川は大きく溢れ、天変地異がもたらされました。それは、この天変地異によってあの敵の者たちを裁くためでした。

イスラエルの人々は、ようやく私たち民族が共に肩を並べて暮らす日が来ると大喜びをしたに違いありません。その気持ちが最後の聖句になって表れています。私たちは神を賛美しよう、友と手を繋ぎ合おう、一緒に歌おう、一緒に踊ろうではないか。そのようにしながら、新しいイスラエル再建の日を待ったのであります。苦難の末に、神はようやく、新しい、人々の交わりを作ってくださいました。